法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-30

大学における学芸員養成課程の新カリキュラム実施の現状と評価 ： 法政大学の旧カリキュラムと新カリキュラム受講生を比較する

金山，喜昭

(出版者 / Publisher)
法政大学資格課程
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学資格課程年報 / 法政大学資格課程年報
(巻 / Volume)
4
(開始ページ / Start Page)
13
(終了ページ / End Page)
19
(発行年 / Year)
2015-03-31
(URL)
https://doi.org/10.15002/00014094

大学における学芸員養成課程の新カリキュラム実施の現状と評価

－法政大学の旧カリキュラムと新カリキュラム受講生を比較する－

法政大学キャリアデザイン学部教授　金山喜昭

はじめに

博物館法改正にともなう博物館法施行規則の改正により、大学教育における教育上の質を確保するために、博物館関連科目のカリキュラム改定が行われ、2012年度から施行された。実際のところ多くの大学では、2013年度以降の受講生から新カリキュラムを適用しているようである。1年生に博物館概論などの入門科目を受講させた上、2年生以降の学年を対象に実施している。

これに比べて、法政大学では2012年の新入生から、「博物館概論」とともに、1年生から新カリキュラムの科目を受講できるように科目設計を行い実施している。その結果、2014年度に改定後の新カリキュラムを受講した最初の学生たちが単位を取得する。新カリキュラムによる学芸員資格養成の質を確認するためには、改定前と、その後の学習効果を点検・評価することが必要となる。

そのために、本稿は旧カリキュラムの受講生と新カリキュラムの受講生を比べて、新カリキュラムを実施したことが、博物館に関する教育上の質を向上させているのかどうかを検証する。あわせて、その結果についても考察することを目的にする。

1．旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行

（1）法定上の変更

法定上、旧カリキュラム8科目12単位から、新カリキュラムになり9科目19単位に変更となった（表1）。

旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行
（法定上）

科目名	単位数
生涯学習論	1
博物館概論	2
博物館経営論	1
博物館資料論	2
博物館情報論	1
視聴覚教育メディア論	1
教育学概論	1
博物館実習	3

（8科目12単位）

科目名	単位数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館情報論・メディア論	2
博物館教育論	2
博物館実習	3

（9科目19単位）

表1

（2）法政大学の変更点

法政大学では、これまで規定されている9科目24単位の科目を開設してきた。新カリキュラムでは単位数を維持したまま、3科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）を新設した。また、博物館学Ⅱ（博物館経営論、博物館情報論）2単位を、博物館経営論2単位に変更し、視聴覚教育（マルチメディア教育論）4単位を博物館情報・メディア論2単位に変更した（表2）。

それにともない、これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議から提言された、各科目の授業内容[註1]を踏まえて、既存の科目と新設科目についてシラバスを作成した。

旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行
（法政大学）

科目名	単位数
生涯学習入門Ⅰ	2
生涯学習入門Ⅱ	2
博物館学Ⅰ（博物館概論）	2
博物館学Ⅱ（博物館経営論・博物館情報論）	2
博物館学Ⅲ（博物館資料論）	2
視聴覚教育（マルチメディア教育論）	4
教育原理	2
教育の制度・経営	2
博物館実習Ⅰ	2
博物館実習Ⅱ	2
博物館実習Ⅲ	2

（9科目24単位）

科目名	単位数
生涯学習入門Ⅰ	2
生涯学習入門Ⅱ	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論（新設）	2
博物館展示論（新設）	2
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論（新設）	2
博物館実習Ⅰ	2
博物館実習Ⅱ	2
博物館実習Ⅲ	2

（11科目24単位）

表2

2．学生アンケート調査

各科目が要求する教育内容は、「大学における学芸員養成科目の改善の内容について」に示されている。科目ごとに求められている教育内容[註2]を、受講生がどの程度理解しているのかを知るために、アンケート調査を実施した。

（1）対象者

すべての博物館関連科目を履修した受講生を対象にした。2013年度は47名、2014年度は38名。合計85名の受講生にアンケート調査を実施した（表3）。

新旧	回答者数	年度内訳
旧カリキュラム	62	2013：47名
		2014：15名
新カリキュラム	23	2014：23名
合計	85名	

表３　アンケート回答者数

（２）方法

『これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議第２次報告書』に示されている教育内容をもとに、学芸員科目の自己理解度に関する調査アンケートを作成した（表４）。このアンケートは表２に示されている各科目において求められている教育内容を、ランダムに序列化し、質問項目を１から８２まで設定している。回答は５段階で、「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」という５つの回答項目を設けた。

学芸員科目の修得度に関する調査

2014 年 11 月 21 日

このアンケートは統計的な分析を目的としており、この結果が成績に反映さることはありませんので、率直にお答えください。

受講年度	学部・研究科	学科・専攻（コース）	学　年	性　別	カリキュラム※
2014				1 男 ・ 2 女	新 ・ 旧

※新カリキュラムでは博物館資料保存論・博物館展示論・博物館教育論の全てが必修となっています。

ID	あなたは学芸員課程での学習を通じ、次の項目をどの程度身につけられたと思いますか。あてはまる箇所に〇をつけて回答してください。	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
Q. 01	展示の政治性と社会性	5	4	3	2	1
Q. 02	展示の制作（企画、デザイン、技術、施工等）	5	4	3	2	1
Q. 03	利用者との関係 （広報・マーケティング、ミュージアムショップ等）	5	4	3	2	1
Q. 04	博物館学の目的・方法・構成	5	4	3	2	1
Q. 05	行財政制度	5	4	3	2	1
Q. 06	博物館関係法令	5	4	3	2	1
Q. 07	権利処理の方法	5	4	3	2	1
Q. 08	ミュージアムマネジメントとは	5	4	3	2	1
Q. 09	資料保存の諸条件とその影響 （温室度、光、振動、大気等）	5	4	3	2	1
Q. 10	情報の意義（視聴覚メディアの理論と歴史を含む）	5	4	3	2	1
Q. 11	収集理念と方法 （情報の記録、収集の倫理・法規、受入手続き・登録等）	5	4	3	2	1
Q. 12	収蔵、展示等の保存環境	5	4	3	2	1
Q. 13	コミュニケーションとしての博物館教育 （博物館教育の双方向性、 博物館諸機能の教育的意義）	5	4	3	2	1
Q. 14	展示解説書（展示図録・パンフレット等）	5	4	3	2	1
Q. 15	博物館の危機管理	5	4	3	2	1
Q. 16	インターネットの活用	5	4	3	2	1
Q. 17	生物被害と IPM（総合的有害生物管理）	5	4	3	2	1
Q. 18	知的財産権（著作権等）	5	4	3	2	1
Q. 19	資料の種類	5	4	3	2	1

表４　調査アンケート（１）

Q. 20	博物館と学校教育（博物館と学習指導要領を含む）	5	4	3	2	1
Q. 21	博物館における学びの特性	5	4	3	2	1
Q. 22	我が国及び諸外国の博物館の現状	5	4	3	2	1
Q. 23	メディアとしての博物館 （視聴覚メディアの発展と博物館）	5	4	3	2	1
Q. 24	機器による解説	5	4	3	2	1
Q. 25	情報教育の意義と重要性	5	4	3	2	1
Q. 26	博物館学史	5	4	3	2	1
Q. 27	調査研究活動の意義と内容 （博物館資料に関する研究、 資料保存に関する研究、 博物館に関する研究等）	5	4	3	2	1
Q. 28	展示の諸形態	5	4	3	2	1
Q. 29	映像倫理、博物館メディアの役割と学習活用	5	4	3	2	1
Q. 30	資料化の過程	5	4	3	2	1
Q. 31	実務実習（資料の取り扱い、 展示、博物館運営等の実務習得）	5	4	3	2	1
Q. 32	文化財の保存と活用（景観、歴史的環境を含む）	5	4	3	2	1
Q. 33	地域資源の保存と活用（エコミュージアム等）	5	4	3	2	1
Q. 34	博物館の機能	5	4	3	2	1
Q. 35	博物館の利用実態と利用者の博物館体験	5	4	3	2	1
Q. 36	調査研究の成果の提示	5	4	3	2	1
Q. 37	資料の分類・整理（目録作成を含む）	5	4	3	2	1
Q. 38	博物館ネットワーク・他館との連携	5	4	3	2	1
Q. 39	資料のドキュメンテーションとデータベース化	5	4	3	2	1
Q. 40	個人情報（肖像権等）	5	4	3	2	1
Q. 41	学芸員の役割（定義、役割、実態）	5	4	3	2	1
Q. 42	我が国及び諸外国の博物館の歴史	5	4	3	2	1
Q. 43	伝統的保存方法	5	4	3	2	1
Q. 44	デジタルアーカイブの現状と課題	5	4	3	2	1
Q. 45	施設・設備	5	4	3	2	1
Q. 46	博物館教育の意義 （生涯学習の場としての博物館、 人材養成の場としての博物館、 地域における博物館の教育機能、 博物館リテラシーの涵養等）	5	4	3	2	1
Q. 47	情報管理と情報公開	5	4	3	2	1
Q. 48	博物館教育活動の手法（館内、館外）	5	4	3	2	1
Q. 49	博物館活動の情報化 （沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）	5	4	3	2	1
Q. 50	資料の修復・修理	5	4	3	2	1

表４　調査アンケート（２）

Q. 51	博物館の種類	5	4	3	2	1
Q. 52	資料の梱包と輸送	5	4	3	2	1
Q. 53	展示の評価と改善・更新	5	4	3	2	1
Q. 54	市民参加（友の会、ボランティア、支援組織等）	5	4	3	2	1
Q. 55	ICT 社会の中の博物館 （情報資源の双方向活用と役割、 情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等）	5	4	3	2	1
Q. 56	使命と計画と評価	5	4	3	2	1
Q. 57	関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等）	5	4	3	2	1
Q. 58	財務	5	4	3	2	1
Q. 59	他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携	5	4	3	2	1
Q. 60	情報機器の活用 （情報端末、新たなメディア経験等）	5	4	3	2	1
Q. 61	博物館の定義	5	4	3	2	1
Q. 62	学びの意義	5	4	3	2	1
Q. 63	博物館教育活動の企画と実施	5	4	3	2	1
Q. 64	館園実習（博物館における実務体験）	5	4	3	2	1
Q. 65	資料の状態調査・現状把握	5	4	3	2	1
Q. 66	解説文・解説パネル	5	4	3	2	1
Q. 67	博物館における資料保存の意義	5	4	3	2	1
Q. 68	見学実習（多様な種類の実態理解）	5	4	3	2	1
Q. 69	コミュニケーションとしての展示	5	4	3	2	1
Q. 70	資料の意義	5	4	3	2	1
Q. 71	事前・事後指導 （実習全体の指導、館園実習に関する指導）	5	4	3	2	1
Q. 72	博物館教育の方法と評価	5	4	3	2	1
Q. 73	資料公開の理念と方法 （アクセス権、特別利用等を含む）	5	4	3	2	1
Q. 74	博物館の目的	5	4	3	2	1
Q. 75	自然環境の保護（生物多様性・種の保存を含む）	5	4	3	2	1
Q. 76	調査研究成果の還元	5	4	3	2	1
Q. 77	人による解説	5	4	3	2	1
Q. 78	組織と職員	5	4	3	2	1
Q. 79	地域社会と博物館 （地域の活性化、地域社会との連携）	5	4	3	2	1
Q. 80	災害の防止と対策 （火災、地震、水害、盗難等）	5	4	3	2	1
Q. 81	展示と展示論の歴史	5	4	3	2	1
Q. 82	博物館倫理（行動規範）	5	4	3	2	1

ご協力ありがとうございました。

表４　調査アンケート（３）

（3）実施時期

本学では、博物館実習Ⅲの授業は、他の関連科目の単位をすべて修得した者を対象にする。そして、博物館実習Ⅲの実習を終えた学生を対象に、本学の富士セミナーハウスで実習を報告する合宿をする。合宿では、学生の報告と最終総括の講義を行う。本アンケート調査は、合宿で最終総括の講義を終えた後に実施した。

3．結果

アンケートを分析するために、質問項目ごとに、「そう思う」を５点から「そう思わない」１点というように点数化し、旧カリキュラム受講生と新カリキュラム受講生とで平均点を比較するグラフを作成した。グラフの横軸の項目はアンケートの質問項目とし、科目ごとにグラフを作成した。（図１～図８）

（1）博物館概論（図 1）

博物館概論は旧、新カリキュラムとも同じ教員が担当した。しかし、結果を見ると全体的に新カリキュラムの受講生の方が各項目に対する評価が高くなっている。中でも、「博物館の種類」と「博物館の歴史」については、0.5 ポイント以上の差がみられる。

（2）博物館経営論（図 2）

博物館経営論の担当教員は旧カリキュラムと新カリキュラムとで異なる。結果を見ると全体的に新カリキュラムの受講生の方が各項目に対する評価が高くなっている。中でも、「財務」「利用者との関係」「市民参加」「博物館ネットワーク」「他機関との連携」については、0.5 ポイント以上の差がみられる。

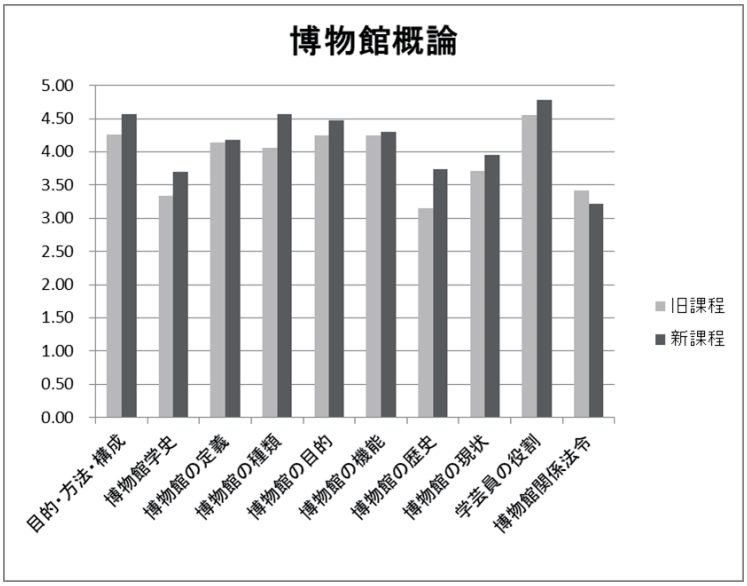

図１

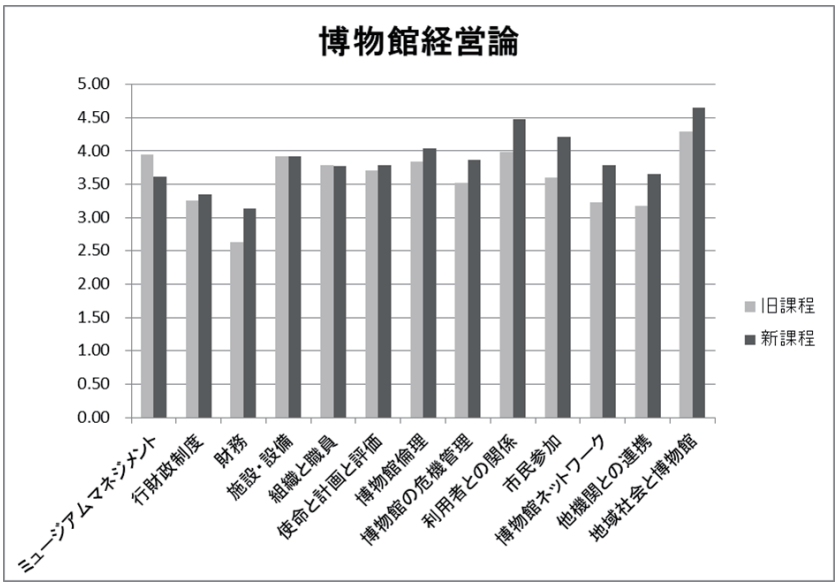

図２

（3）博物館資料論（図 3）

博物館資料論は旧、新カリキュラムとも担当者は同じである。結果を見ると全体的に同じような評価となっている。

（4）博物館資料保存論（図 4）

博物館資料保存論は新カリキュラムで新たに開設された科目である。すべての質問項目において、新カリキュラムの受講生の評価は高い。中でも、「資料保存の意義」「資料の修復・修理」「災害の防止と対策」「文化財の保存と活用」「自然環境の保護」は 0.5 ポイント以上の差がみられ、「生物被害と IPM」については 1 ポイント以上の差がある。

（5）博物館展示論（図 5）

博物館展示論は新カリキュラムで新たに開設された科目である。旧カリキュラムでは展示に特化した授業が無かった。全体的に新カリキュラムの受講生の方が各項目に対する評価が高くなっている。中でも、「コミュニケーションとしての展示」「展示と展示論の歴史」「人による解説」「機器による解説」「展示解説書」については、0.5 ポイント以上の差がみられる。

（6）博物館情報・メディア論（図 6）

旧カリキュラム視聴覚教育は 4 単位で、新カリキュラムの博物館情報・メディア論は 2 単位となったにもかかわらず、旧カリキュラムと新カリキュラム受講生とで、大きな差は見られなかった。ただ、新カリキュラムにおいては「情報機器の活用」について 0.5 ポイント以上の差がみられた。

（7）博物館教育論（図 7）

旧カリキュラムは教育原理と教育の制度の 2 単位ずつ計 4 単位であった。

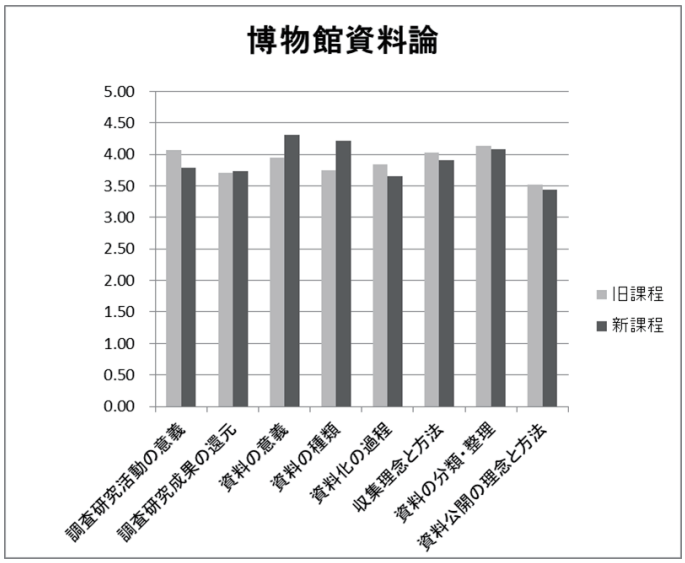

図 3

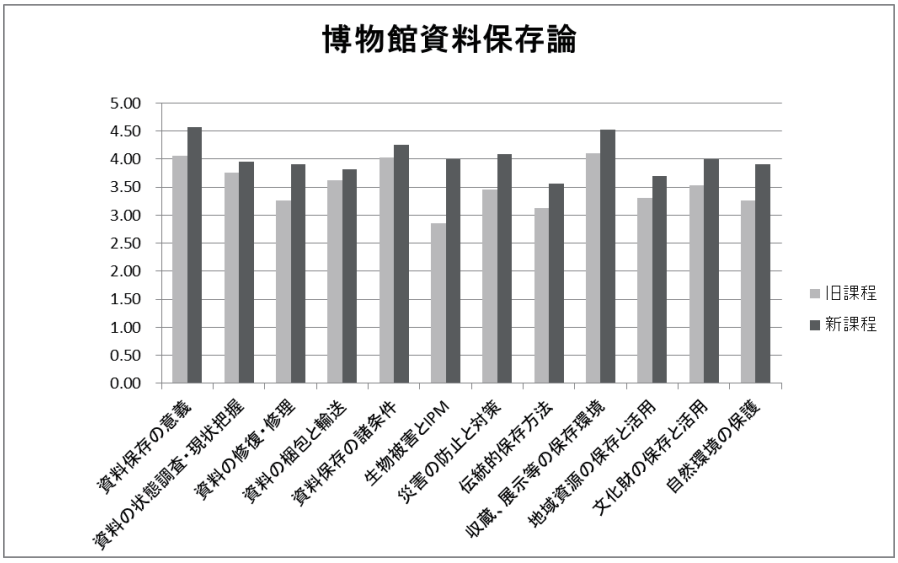

図 4

新カリキュラムでは博物館教育論として新設したところ、全体的に高くなっている。「博物館教育活動の企画と実施」については 0.5 ポイント以上の差がみられた。

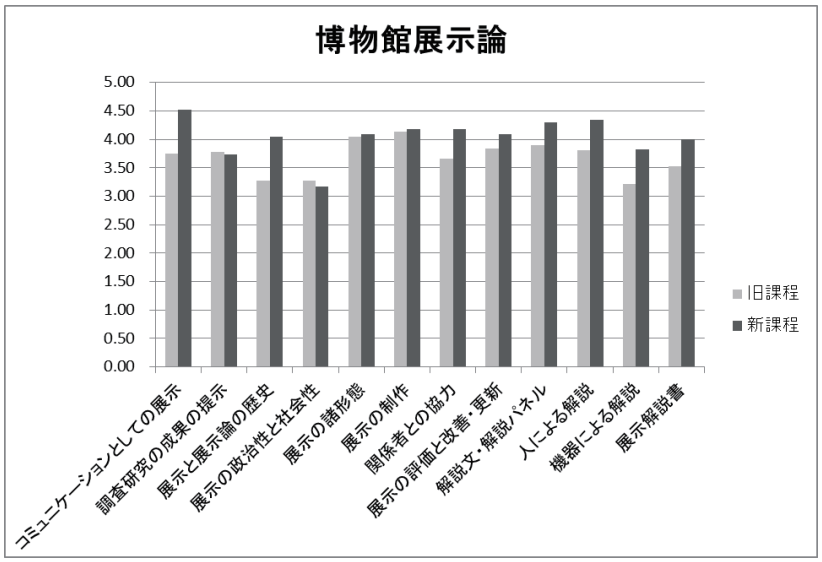

図 5

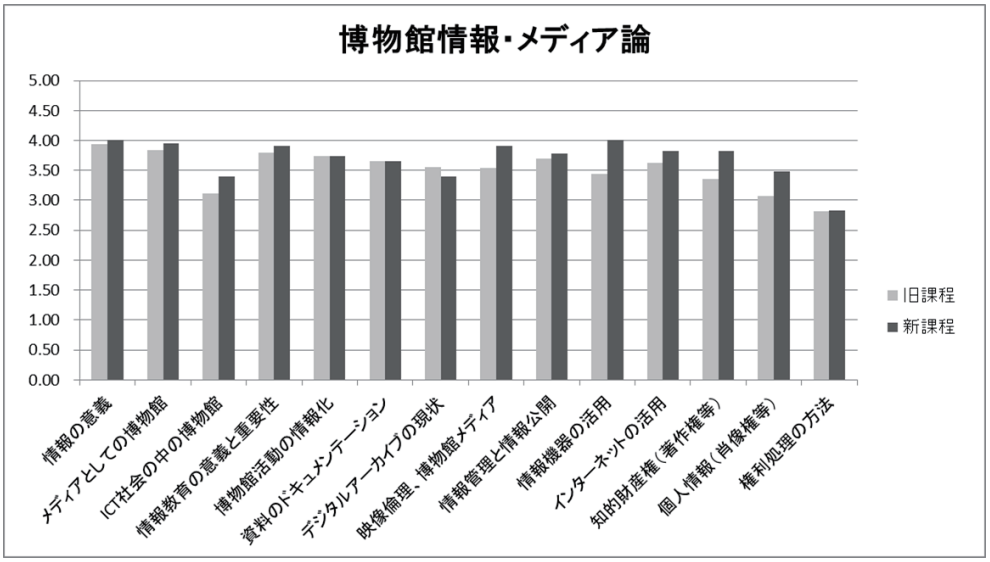

図 6

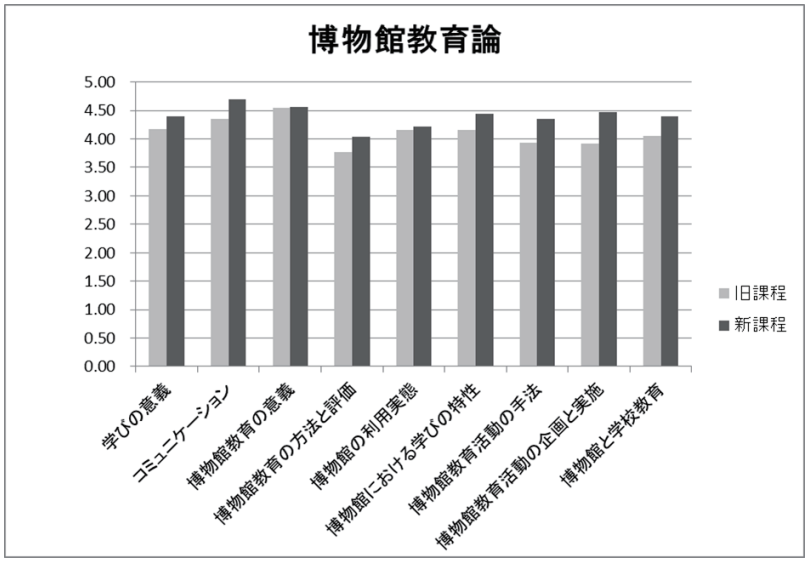

図 7

（8）博物館実習（図8）

博物館実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをあわせたもの。

博物館実習Ⅰは、博物館資料の取り扱い、博物館見学、コレクション調査（資料の観察と資料カードの作成）、博物館資料の整理（実測、拓本、写真撮影、掛け軸の取り扱い、梱包）などを行う。博物館実習Ⅱは、出品交渉、展示の方法や種類、展覧会企画書の作成・発表などを行う。博物館実習Ⅲは、実務実習（10日間）や実習成果報告会などを行う。

担当教員は同じである。単位数、授業内容も特に変更していない。しかし、全体的に新カリキュラム受講生の評価は高くなっている。

4．新カリキュラムの評価

これまでは、各科目の質問項目ごとの詳細についてふれてきたが、図9は各科目ごとに旧カリキュラムと新カリキュラムとを対比したものである。

その結果、新カリキュラムが導入されたことにより、全体的に受講生の自己理解度は高くなっていることが分かる。特に博物館資料保存論については0.5ポイント以上の差がみられた。

新カリキュラムを実施するにあたり新規科目ばかりでなく既存の科目についても、「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」（以下、検討協力者会議と表記）によって新たに示された教育内容を踏まえてシラバスを作成したことが、直接的な影響を与えているものと思われる。また、昨年に博物館関連科目の担当教員によるFDミーティング[註3]は、科目間の重複や欠落部分を補整することや、教員側の意識を啓発するために有効に作用したのではないだろうか。

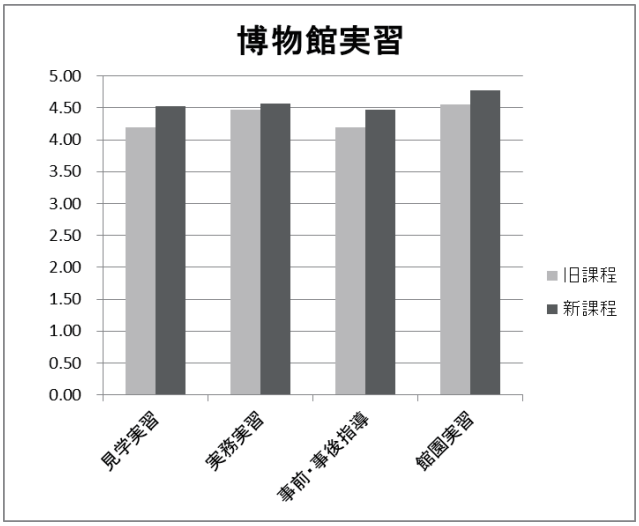

図8

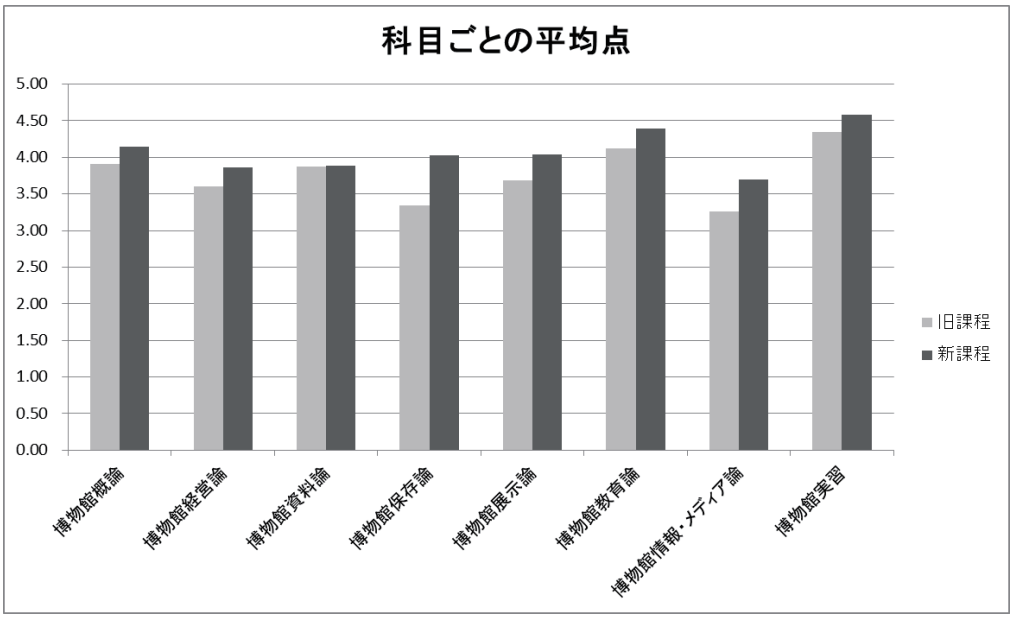

図9

5．本調査の位置づけと今後の課題

今回の調査は、新カリキュラムの教育的な質を保障するために必要となる、点検に関する一つの試みである。PDCA サイクルを働かせるためのチェック機能となる。新カリキュラムを設計・計画して実施した後の点検段階である。点検の手法はいろいろとあると思われ、これからも点検作業を進めることがもとめられる。今回の点検からは、判明したことは次の通りである。

①新カリキュラムに移行したことは、博物館関連科目に対する学生の自己理解度を全般的に高める効果をもたらした。

②それぞれの科目は個別化するものはなく、相互に重複する関係性がある。新カリキュラムが求める科目ごとの教育内容はそれぞれの科目だけが担うものではなく、他の科目とも補い合うものとなっている。

③習熟度を高めた背景には、新規科目ばかりでなく既存の科目についても、検討協力者会議によって新たに示された教育内容を踏まえてシラバスを作成したことが有効に作用したのではないかと思われる。

④また、昨年度に博物館関連科目の専任・兼任教員全員による、授業 FD ミーティングを行った。そのことも教育の質を確保するために必要であろう。相互の風通しや意思疎通をはかることにより、科目間の内容上の重複を避けることや、欠落部分を確認して補うことができる。

［註］

（1）これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議『学芸員養成の充実方策について（第 2 次報告書）』2009 年 2 月

（2）註 1 と同じ

（3）2014 年 2 月に実施した。各担当教員（15 名）から、授業の進め方、教育上の効果と手ごたえ、問題と課題などについての報告や意見交換をした。その結果、「他の科目の授業内容や授業方法などを具体的に知ることができた」など、意見や感想が多く寄せられた。